

第4段階：ガリラヤにおける大宣教
J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる
デیلیー・ジーザス・ニュース #133

13. イエスは山を動かす信仰について教える

マタイ17.19-20（並行テキスト：マルコ9.28-29）

19 イエスが家の中に入ってから、弟子たちはひそかに彼のもとに来て尋ねました。「なぜ私たちは悪霊を追い出すことができなかったのですか？」

20 彼は答えた。「あなたの信仰があまりにも弱いからです。^Mこの種の悪魔は祈りによってのみ追い出すことができます。

^{MT}「よく聞きなさい。もしからし種ほどの信仰があれば、この山に『ここからあそこに移れ』と命じても移るでしょう。あなたにとってできないことは何もありません。」

=====

注: 私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します: マタイ = ^{MT}、マーク = ^M、ルカ = ^L、ヨハネ = ^J、使徒行伝 = ^A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。さらに、イエスの言葉は赤いイタリック体で書かれています。旧約聖書の引用は大文字で書かれています。

コンテキストダイジェスト	
位置	カイサリア・フィリピ近郊
タイムライン	7月（30月）
イエスの生涯の文脈	第4段階：ガリラヤにおける大宣教
	J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる
タイトル	13. イエスは山を動かす信仰について教える

コメント：

信仰と祈りに関するもう一つの重要な教えは、イエスがガリラヤ周辺の異邦人地域を長期間訪問された際に、その締めくくりとなりました。使徒たちは、ガリラヤへの第三回巡回旅行の以前から、イエスの賜物と権威が彼らを通して働いているという信仰を実践していました。「彼らは多くの悪霊を追い出し、多くの病人に油を塗って癒した。」（マルコ6:13）しかし、彼らの信仰はまだ発展途上でした。実際、彼らは信仰の「低迷」を長く経験していました。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる

第三巡回の旅の終わりにイエスのもとに集まった後、彼らは5000人と4000人に食事を与える手段をイエスに頼ることができませんでした。ペテロは水の上を歩きましたが、イエスから目を離した途端、沈んでしまいました。彼らはイエスが「パリサイ人とサドカイ人のパン種」という言葉で何を意味していたのかという教訓を誤解していました。ペテロは使徒たちを代表して「大告白」を行いました。彼らはイエスが十字架について教えられたことを信じ、受け入れることができませんでした。ペテロ、ヤコブ、ヨハネは変容の教訓を理解していませんでした。一方、他の9人の使徒たちは、信仰と祈りの欠如のために悪霊を追い出すことができませんでした。使徒たちにとって、それは長きにわたる不十分さ、そして失敗の時期でした。

イエスが数ヶ月にわたる隠遁生活の間、弟子たちの訓練に集中していたのも無理はありません。彼らはそれを切実に必要としていたのです。イエスは、悪霊を追い出せなかった弟子たちについて、簡潔ながらも洞察に満ちた説明をされました。その説明を通して、弟子たちの抱える根本的な問題、すなわち信仰と祈りについて成長する必要があることがはっきりと浮かび上がりました。この二つの行為は、コインの表裏のように常に連動しており、どちらか一方だけを表現することは不可能です。

この教えの中で、イエスは悪霊に取り憑かれた少年の癒しにおいて、信仰と祈りが果たす重要な役割を強調されました。イエスは「**信じる者にはすべてが可能だ**」と宣言されました。少年の父親は「**信じます。どうか、私の不信仰を克服できるように助けてください！**」と答えました。そしてイエスは、権威ある祈りによって悪霊を追い出すことで、信仰の力を実証されました。

イエスが悪霊を追い払うことができたのは、日々の祈りの修行を通して「祈りの力」を身に付けていたからです。変容の前日、山で熱心に祈りを捧げ、目に見えない父なる神と絶えず交わりながら心の中で絶え間なく祈り続けたことも、イエスを準備させていました。イエスは祈りを通して絶えず信仰を鍛え、山積する病氣、悪霊にとりつかれた者、そして身体的な障害が神の力によって毎回崩れ去るのを見守りました。そして弟子たちにも同じようにすることを願っていました。

「あなたの信仰に応じて、あなたに成就しますように」という原則を定めておられるので、私たちは皆、運動を通して肉体の強さを鍛えるのと同じように、信仰を育むことを学んでいます。神が私たちを通して御心を成就してくださることに限りはありません。」（神の御心にある）すべては、**信じる者には可能です。」**

神の御心の真実を信じる時、私たちは祈りの中で、御心を成就してくださるよう神に求めます。なぜなら、私たちは御心を成就する力において神に依存しているからです。この「信じて求める」という組み合わせを経験すればするほど、神は御心に沿ったすべての祈りに答えてくださるという確信が深まります。私たちの信仰はこのようにして成長していくのです。

この箇所ではイエスは権威ある祈りについて教えられました。「**もしあなたがたにからし種ほどの信仰があるなら、この山に『ここからあそこに移れ』と命じれば、それは移るであろう』と言われました。**この種の祈りは、助けが必要な「山」、つまり地域に直接語りかけ、イエスの名において「行方」のように命じるものです。イエスはほとんどの場合、権威ある祈りによって悪霊を追い出し、人々を癒されました。使徒行伝には、使徒たちがこの種の祈りを実践した例が記されています。

第4段階：ガリラヤにおける大宣教

J. イエスはガリラヤ周辺の異邦人地域へ退かれる

権威ある祈りは、特定の事柄に関して神の御心をすでに神に尋ねた人にとって可能です。神の御言葉と祈りを通して神の御心を確信した私たちは、信仰によって、権威をもって、その状況に直接語りかけます。私たちは神が御心を成就させてくださると信じているので、それを宣言します。イエスは弟子たちに、権威ある祈りを実践するご自身の模範に従うように教えておられました。

応用：

弟子たちがまだ信仰に苦しんでいた時、イエスが権威ある祈りで「山に語りかけなさい」と教えたことは、本当に励みになります。このような祈りは、からし種ほどの信仰しか持っていない人にも可能なのです。重要なのは権威ある祈りへの信仰ではなく、それが神の御心であるという確信です。それが神の御心であると信じるなら、神は必ずそれを成就してくださるという信仰を表明することができます。

私たちの信仰は、神の忠実さと力に対する信仰であり、私たち自身の信仰ではありません。イエスはこの重要な教えを通して、権威ある祈りの可能性を私たち全員に示してくださいました。

あなたは今日、神の意志に対するどんな「山」のような抵抗に対して信仰をもって語りかける必要がありますか？

どのようにして、あなたの個人的な祈りの生活の質を継続的に高め、あなたの人生とあなたが祈る人々の人生において神の意志の特定の側面が行われるように祈る力をつけるのでしょうか。